



2026年10月27日
公益財団法人 旭硝子財団

2026 年（第 35 回）ブループラネット賞 受賞者記者会見を実施
リンダ・S・バーンバウム博士とエドワード・バービエイ教授が
日本の技術と自然共生の知恵と歴史を礎に、次世代による国際協調の牽引に期待

公益財団法人旭硝子財団（理事長 島村琢哉、所在地 東京都千代田区）は、今年で35回目を迎える、ブループラネット賞（地球環境国際賞）の2026年の受賞者記者会見を10月27日（火）に帝国ホテルにて開催いたしました。

会見当日は、本年の受賞者である、環境化学物質のリスク評価と科学に基づく政策形成に貢献してきたリンダ・S・バーンバウム博士と、自然資本を指標化し、国際的なグリーン経済の実装を牽引してきたエドワード・バービエイ教授が、受賞への思いや自身の研究について語りました。

リンダ・S・バーンバウム博士は「ダイオキシンやPFASといった残留性化学物質は、胎児期や妊娠期といった『感受性の高い時期』に微量であっても生涯にわたる深刻な影響を及ぼします。汚染が起きてから取り除くことは困難であり、未然に防ぐことこそが極めて重要です。科学者は論文の発表にとどまらず、誠実に科学的根拠を市民や政策決定者に届け、社会の仕組みを変える対話を促す責任があります。本賞を通じて、環境化学物質のリスクと予防の重要性に再び国際的な光を当てていただいたことに深く感謝いたします」と述べました。エドワード・バービエイ教授は「これまでに本賞を受賞された卓越した方々の一員に加われることができ、大変名誉に思います。私の研究は『自然は私たちの経済的富と福祉の基盤である』という命題のもと、『貧困と環境の関連性』『自然資本と生態系サービスの評価』『持続可能な経済へ転換するための政策・投資指針』3つの領域を探索してきました。学術的な信頼性を保ちながら政策に直結させ、一般にもわかりやすく伝えることを重視しています」と受賞の喜びを語りました。



（左から）リンダ・S・バーンバウム博士、エドワード・バービエイ教授

環境問題について学ぶ日本の学生や研究者に対し、リンダ・S・バーンバウム博士は「環境化学・環境衛生の道を選択した若い研究者や学生の皆さんの存在こそが、持続可能な未来への希望です。21世紀が直面する複合的な環境危機は、国境を越えた多角的な協調なくして克服できません。科学的イノベーションを牽引してきた日本の強みを活かし、先人の築いたリーダーシップの精神を継承・発展させてください。学術的・社会的な変革の結実には長期的かつ強い意志が求められます。自らの力を信じ、単独での解決に縛られることなく、多様なセクターとの協創を通じて新たなソリューションを提示していただください」と語り、エドワード・バービエイ教授は「経済が自然の中に包摂されているという本質を理解し、持続可能な未来への道筋を示すこと

こそが、次世代の研究者や学生に託された重責です。日本は、自然と共生してきた歴史的英知と、高度な環境・省エネ技術の双方を兼ね備え、牽引してきた国です。分断が進む国際社会において、環境分野の多国間協調を牽引し、持続可能性と経済発展が調和するモデルを世界へ提示してください。自然資本、生態系サービス、グリーン経済をめぐる私の知見が、皆さんの学術的探求と社会変革に向けた強力な礎となることを期待しています」と応援のメッセージを残しました。

今後は、表彰式典を10月28日(水)に東京會館(東京都千代田区)で、受賞者による記念講演会を10月29日(木)に東京証券会館、10月31日(土)に京都市国際交流会館で開催いたします。

<受賞者プロフィール>

1. リンダ・S・バーンバウム博士(米国) 1946年12月21日生まれ
元国立環境健康科学研究所(NIEHS)所長、元国家毒性プログラム(NTP)ディレクター



環境化学物質のリスク評価と科学に基づく政策形成への貢献

環境中に残留しやすい化学物質の毒性研究を主導し、国際的なリスク評価を大きく進展させた。特に胎児期等の「感受性の高い時期」での内分泌かく乱物質への曝露が長期的な健康に影響し得ることを示し、脆弱な集団を保護する科学的根拠を強化した。米国国立環境健康科学研究所(NIEHS)所長および国家毒性プログラム(NTP)のディレクターとして科学と政策の橋渡しをし、知見を公衆衛生の向上につなげた。

2. エドワード・バービエイ教授(米国) 1957年7月22日生まれ
コロラド州立大学 経済学部 卓越教授



自然資本を指標化し、国際的なグリーン経済の実装を牽引

自然資本や生態系サービスの価値付けに関する取り組みを主導し、政策や投資の具体的指針を示してきた。国連環境計画(UNEP)報告書『A Global Green New Deal (2009)』で、経済復興・貧困削減・脱炭素化・生態系保護を統合した回復戦略を提示し、以来、自然保護を経済的繁栄のための「戦略的投資」と位置づけた。さらに、「貧困と環境の相互関係」に関する分析を通じて、地球環境問題への対応と社会的公正との両立に向けた道筋を示した。

ブループラネット賞について

人類が解決を求められているグローバルな諸問題の中で、最も重要な課題の一つが地球環境の保全です。地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少、河川・海洋汚染などの地球環境の悪化は、いずれも私達人間の経済活動や生活が大自然に影響を及ぼした結果です。

旭硝子財団は、地球環境の修復を願い、地球サミットが開催された1992年(平成4年)に、地球環境問題の解決に向けて著しい貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞「ブループラネット賞」を創設いたしました。

賞の名称 ブループラネットは人類として初めて宇宙から地球を眺めた宇宙飛行士ガガーリン氏の言葉「地球は青かった」にちなんで名付けました。この青い地球が未来にわたり、人類の共有財産として存在しつづけるように、との祈りがこめられています。



＜賞状とトロフィー＞

■ 本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 旭硝子財団
顕彰事業部長 伊勢村次秀

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 2 階

TEL : 03-5275-0620 / FAX : 03-5275-0871

e-mail : post@af-info.or.jp / URL : <https://www.af-info.or.jp>

今年度受賞者についてのURL : <https://www.af-info.or.jp/blueplanet/introduction.html>